令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　沼　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

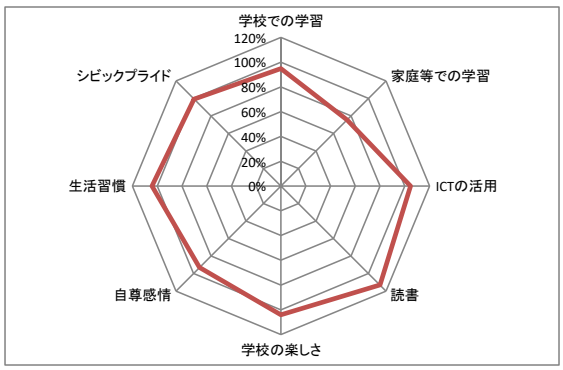
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	選択肢を選んだり、短い文で答えたりする形式の問題は正答率が高かった。文章を読み取り、答えを導く力はある。しかし資料を読んで、その理由や自分の考えを書くなどの記述形式の問題が正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	たし算やかけ算が混合した式の計算や分配法則を用いた計算、また比例を用いた問題は正答率が高かった。三角形や台形の性質を応用して解く問題が正答率が低かった。考え方を記述する問題は正答率が低く、無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学習でICT機器は勉強の役に立つか」はほぼ100%の児童が肯定的に回答している。また「授業時間以外に、普段どれくらいICT危機を勉強のために使っているか」は全国平均を５%以上上回っている。
・「読書が好き」「授業以外に読書をする時間」が全国平均を上回っている。読書の経験が国語科をはじめとする学力向上に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で積極的に読書活動を進めていく。
・家庭等での学習の時間が、全国平均を下回っている。
・「自分にはよいところがある」などの自尊感情が低い傾向にある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

〇算数科において、解くだけでなくなぜそうなるか説明を記述させ、友達と伝え合う活動を推進することで主体的に取り組む態度を育ませている。また算数が苦手な児童も積極的に問題解決に参加できるように、全員が見通しをもたせることを重視した授業に取り組んでいる。

②　家庭生活習慣等に関する取組

〇自尊感情を高めるために、毎日全員声掛けや、名前を呼んで誉めること、また「北九州子どもつながりプログラム」の活用を行っている。
〇家庭での学習の習慣づくりに課題があるため、家庭学習の重要さを啓発するとともに、タブレット端末等を活用した個別最適な学習方法を推奨して、児童が家庭で意欲をもって主体的に学習に取り組めるようにする。